

平成 27 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立東柏ヶ谷小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・小学校第6学年
- ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？
これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？
身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
- (3) 学校に対する質問紙調査 指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 前年度と同様に、漢字については、問題によって差はあるものの、読んだり書いたりすることがよくできます。
- 文章を読み、大切な部分を選んだり、適切な言葉を引用したりすることができます。
- 物語の登場人物の相互関係を捉えることのできる児童が多くいます。

《努力を要する所》

- 適切な主語を選んだり、文章の構成や工夫を捉えたりすることには、課題があります。
- 話の内容に対する聞き方の説明として、適切なものを選択することについては課題があります。



国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉え、まとめて書くことができます。
- 目的に応じ、中心になる文を的確に捉えることができます。
- 見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択することができます。

《努力を要する所》

- AB問題とも選択問題はできているのに対し、記述式の設問の正答率が低い傾向にあります。
- A問題に比べB問題の方が正答率が低く、学んだ知識を活用する力に課題が見られます。
- 文章と図とを関係づけて自分の考えを書くことには、課題があります。

今後の具体的な取組

- 今まで通り、学習のめあてや設問の意図を、書くという視点から明確に提示していきます。
- 要旨を書く問題は、よくできているのに対し、自分の考えを書く問題については課題が見られるので、「書く力」をつけるために全教科で自分の考えを書く活動を取り入れます。
- 文章の内容を捉える力をつけるために、読書活動をより一層推進していきます。そのために、学校図書館司書と連携して学校図書館・学級文庫を充実します。
- 語彙力を豊かにするために、前年度に引き続き、授業の中で国語辞典を活用していきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 加法における計算の確かめの方法を理解しています。
- 日常生活の中で必要となる時間を求めることができます。
- 展開の必要な面の大きさを見取り図から読み取ることができます。



《努力を要する所》

- 角の大きさの見当をつける力に課題があります。
- 図形の辺や面の位置関係を捉えることが苦手です。
- グラフに表わされている事柄を読み取ることに課題があります。
- 小数や分数の計算する力を身につける必要があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 見積もりの結果と実際の数の和との大小関係から目的に応じた判断ができます。
- 分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を述べることができます。
- 示された二組の道のりが等しくなる根拠として図形を見出し、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述することができます。

《努力を要する所》

- 正三角形の性質を基に、示された周りの長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることに課題があります。
- 図形の決まりを活用して示された部分の面積を求めることに課題があります。
- 示された情報を整理し、筋道を立てて考え記述することに課題があります。

今後の具体的な取組

- 四則計算は、低学年からの積み重ねです。基礎基本をしっかり身につけることを大切にしていきます。
- 何が問われているかを理解するまで、根気強く取り組む姿勢を身につけていきます。
- 具体物を活用したり実際に活動したりするなど、「算数的活動」を取り入れた授業を進めていきます。
- めあてを明確にし、考えさせたり話し合ったりする授業を実践していきます。

理科に関する調査結果

《優れている所》

○主として「知識」に関する問題

- ・観察した結果から、星座や雲の動きなどを読み取ることができます。
- ・水が気体に変化すると水蒸気になることなど、物質の三態について理解できています。
- ・実験器具の名称を理解し操作することができます。
- ・物質、エネルギー、生命、地球の4つの分野が平均的に理解できています。

○主として「活用」に関する問題

- ・生物の成長に関することは理解できています。
- ・グラフをもとに地面の温度と気温の変化を関係づけて考えることができています。
- ・実験を行う際、目的にあった条件設定をすることができます。



《努力を要する所》

○主として「知識」に関する問題

- ・いくつかの条件を関連づけて考えていくことが苦手です。
- ・知識として得たものが生活の中で生かされていない面が見受けられます。
- ・記述で解答する問題を苦手とする児童が多いです。

○主として「活用」に関する問題

- ・グラフから結果を読み取り、考察して分析した内容を記述することに課題が見られます。
- ・それぞれの分野を複合し、考えなければいけない問題を苦手とする児童が多いです。

今後の具体的な取組

○実際に実験したり、観察したりすることをより多くの授業の中に取り入れていきます。

○児童の発想や思い、疑問などを大切にしながら授業の展開を考えていきます。

○学んだことを実際の自然や日常生活に当てはめて考える活動を充実していきます。

○実験結果から自分の考えをまとめていける力をつけていきます。

○授業のめあてや課題を明確にしていきます。

○児童が興味関心が持てるような授業の工夫を行っていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「新しい問題を解いてみたい」「解き方が難しくても諦めない」の質問は、「当てはまる」と答えた児童が全国平均を上回っています。新しいことに挑戦しようとする意欲や、最後までやり遂げる力が身につけてきています。
- 「自分で計画を立てて予習・復習をしている」と答えた児童は、全国平均を上回っています。

《課題と思われる所》

- 感想文・説明文など、「自分の考えを表現することが難しい」と回答している児童が見られます。



生活について

《よかった所》

- 「人の気持ちが分かるような人間になりたいと思う」の質問に対して、95.2パーセントの児童が「当てはまる」と答えています。学校教育目標にある「やさしい心を広げよう」の実践活動が広まっていることがわかります。
- 「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対して、92.3パーセントの児童が「ある」と回答しています。全国の86.5パーセントに比べると高い結果となっています。

《課題と思われる所》

- 地域の行事の参加率が67.3パーセントです。地域と結びつくことは子どもの成長に欠かせないことです。家庭と地域が協力することで、地域コミュニティがより一層深まると考えます。
- 普段のテレビゲームの時間は、4時間以上と答えた児童が8.7パーセントいました。また、携帯電話やスマートフォンの所有率は、63パーセントです。学力や生活習慣との関連を考えれば、与え方・使い方を家庭でしっかり考えていく必要があります。

今後の具体的な取組

- 読書の時間や図書館利用は全国平均です。休日の市民図書館の一般開放の利用を促したり、本校で取り組んでいる朝読書の時間の取組を徹底したりして、語彙力・想像力・集中力を育てていきます。
- 自己表現はあまり得意ではありませんが、人の役に立ちたいという思いは94.2パーセントと高いので、児童の思いを具現化できるよう支援していきます。
- 本校の特色である地域との連携を大切に、学校・家庭・地域がひびきあい、ともに子どもの成長を支えていきます。

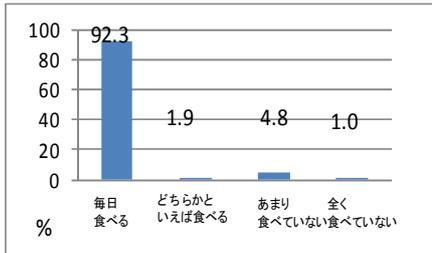
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、家で朝食をとります。元気のみなもとです。

昨年同様就寝時間、起床時間を決め、しっかりと朝食をとって学校に登校させてください。習慣化が大切です。

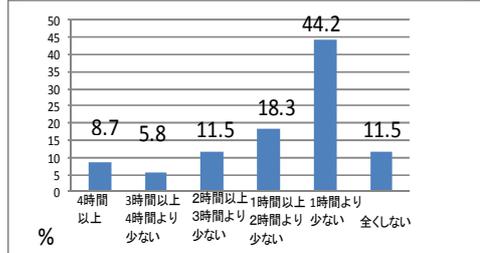
朝食を毎日食べていますか。



2 家庭で守るルールを決めましょう。

昨年よりもゲームをする時間がへっています。一時間未満のご家庭が55.7%です。引き続きご協力をお願いします。

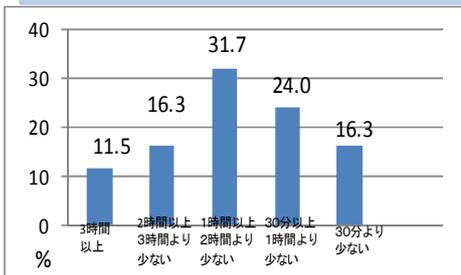
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭での学習習慣をつけましょう。

学習時間の目安は10分×学年です。子どもたちが学習の習慣が身につくよう見守ってください。

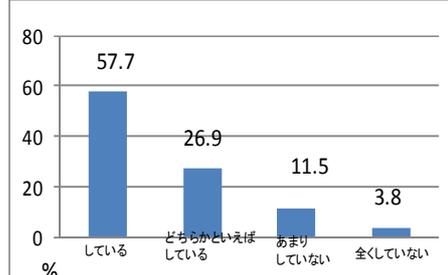
普段、一日あたりどれぐらいの時間勉強しますか。



4 家庭でのコミュニケーションづくりを大切にしましょう。

家庭でのコミュニケーションは必要不可欠です。興味を持ちながら、学校のできごとについて、話す時間をつくりましょう。

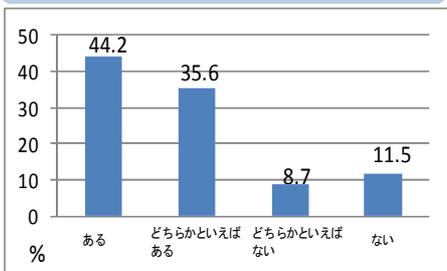
家の人と学校での出来事について話しますか。



5 できるようになったことや、やさしい心が見えたらほめましょう。

自分のよさがわかったり、自信を持ったりすることで様々なことが飛躍的に伸びていきます。自己肯定できる児童が8割近くいます。

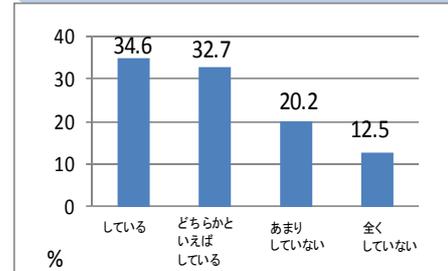
自分にはよいところがありますか。



6 今住んでいる地域の行事に参加しましょう。

地域の行事に参加する児童が増えています。子どもを知ってもらうことで安全も守られます。子どもは地域の宝です。

地域の行事に参加していますか。



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

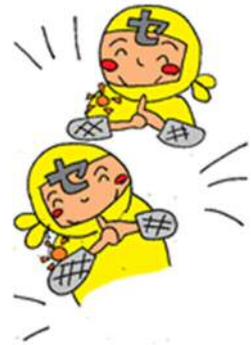
- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月